

コトバカっ!



コトバカ
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカルっ!

ナニサマ?!

「領収書のお宛名は？」と聞かれ「上」でお願いします」と言うたびに居心地の悪さを感じる。「上様」の「様」を取ったところで、もとは「上」も敬語だから、自分で名乗るのはおこがましい。

ところが、そんな思いをちらにする出来事があった。飲み会で領収書をもらう際、サービ担当の女性に「上でお願います」と言ったら「カタカナですか？ 漢字ですか？」と聞いてくるではないか。とっさに「どっちでもいいです」と答えると「ウエ様」と可愛らしい文字で書いてくれた。その点、メールは可愛らしさが伝わりにくいから気をつけよう。先日、知り合いの部下でまだ面識のない人から事務的な連絡メールを受け取ったが、本文の一行目に「言葉家相川」と書かれていた。「相川様」ではなく「相川」である。一瞬ぎょっとした。まあ、誤字脱字なんてよくあるよな、自分もよくやるし、とそのまま忘れていたけど、実際に会ってみると、その人は礼儀正しく人あたりのよい好青年だった。

彼からはその後もメールがきた。「言葉家相川」から始まる事務的な……。オーマイガッ! 「様」はどこへ? だが、こんな小さなことを気にするのもオトナげないと思ひ、忘れることにする。うっん、忘れてなんかない。その証拠に、三回目、彼からメールを受信したときは、本文を開ける瞬間ドキドキした。今回も様がついていないことを確認し、逆に安心したりして。もはや私は彼のとりこである。でもでもなせ呼び捨てなのー?!

よし、逆襲してやろう、とイタズラ心を出して「〇〇社〇〇様」と書くところを、様をわざわざ削除して返信メールを作成してみた。いや待てよ、これって嫌みじゃない? 私たちはジョークを飛ばし合うほど打ち解けた関係ではないよなと思う。それどころか、まだ二回ほど同席しただけで言葉らしい言葉すら交わしていないじゃないか。私は結局、様をつけた当たり障りのないメールを返信したのだった。

ぐやじい。自分の小ささが!

相川藍(言葉家)

丸の内文学賞(大賞)、朝日広告賞(最高賞)、インターネッ
ト書評コンテスト(最優秀賞)受賞。早稲田大学第一文
学部卒。コピーライター。